

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32633

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25671025

研究課題名(和文) インドネシア農村部での予防・健康増進転換への協働的看護活動モデル開発

研究課題名(英文) Collaborative Development of a Community Health and Nursing Practicing Model for Shifting to Prevention and Health Promotion in a Rural District of West Java, Indonesia

研究代表者

田代 順子 (TASHIRO, Junko)

聖路加国際大学・看護学部・教授

研究者番号：30134175

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、予防・健康増進転換期にあるインドネシア農村部での予防・健康増進活動強化に向け保健・看護人材教育強化のための地域保健・看護活動モデルをインドネシア国研究者と開発することであった。研究活動として 1. 県保健医療関係者から地域保健問題の聞き取り 2. 増加する高血圧症を持つ住民の予防・健康増進ニーズ調査 3. 調査結果についてのヘルスワーカーとの意見交換、4. 看護教育カリキュラムの見直しを実施した。結果から農村部での予防・健康増進強化のため、看護基礎教育で非感染症対策の教育を増やし、看護継続教育の機会を提供し、他職種連携教育の機会を増やすことを含む地域保健看護強化モデル試案を提言した。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a community health and nursing practicing model collaboratively with Indonesian counterparts in order to enhance rural community health and nursing activities which is transitional phase. Research activities were conducted, firstly, interviews with district stakeholders; secondly, need's survey for rural people with blood hypertension, thirdly discussion with health care workers, and finally curriculum review with counterparts. Based on results we proposed a community health and nursing practicing model inducing adult nursing subject dealing with non-communicable disease to prevent and promote health for basic nursing education; develop continuing education for increasing health issues for community nurses and health workers; and provide more interprofessional education. A community health and nursing practicing model was developed for strengthening preventive and promotive health care in rural Indonesia.

研究分野：看護学・地域看護学

キーワード：インドネシア 予防・健康増進転換 農村部 地域保健・看護強化モデル 地域保健・看護教育強化

1. 研究開始当初の背景

世界において非感染性疾患 (Noncommunicable diseases: NCDs) による死亡が増加し、2008年にWHOが行動計画(World Health Organization, 2008)を立案し、各国でNCDs予防とコントロールのための保健政策の強化が進んでいる。

中所得国のインドネシアにおいてもNCDsが死因の6割を占め(World Health Organization, 2011)、主要な健康課題である。NCDsの行動要因として食生活と運動不足等が指摘され、インドネシアでは1990年代後半からの経済成長と都市化が食事摂取カロリーの増加等、人々の生活を変容させた(Rada & Regmi, 2010)。

インドネシアの保健政策として、疾病の治療に加え、予防・ヘルス・プロモーション(Kementerian Kesehatan Republik Indonesia, 2009)へと拡大しており、NCDs対策には人々が自ら健康的なライフスタイルを実践できるよう支援することが重要である。保健システムとしては、インドネシアは地域保健センター数が比較的多い(人口約3万に対し1センター)ことから、地域の看護職が、住民の健康的なライフスタイル実践への支援の重要な役割を担っているが、現在は、感染症対策と母子保健の活動にとどまっている。

インドネシアの健康課題となっているNCDs対策において、健康的なライフスタイル実践への看護支援のため、まず人々の健康信念と行動(ヘルスライフスタイル)とその影響要因の理解が必要であるが、研究としては着手されていない。西ジャワ州の農村部地域においても、近年、NCDsの増加が報告されている(申請者の県保健局長への面接調査より)が、その対応は今後の課題である。

2. 研究の目的

インドネシアの保健施策「Healthy Indonesia 2025」に向け、実施上課題が残る農村部における予防・ヘルス・プロモーション(健康増進)の地域保健・看護活動モデルをインドネシア研究パートナーと協働的に開発し、農村部の住民の健康信念や行動(ヘルスライフスタイル)、

及びそれに影響する個人、社会・環境要因を調査し、地域でサービス提供をしている助産師・看護師強化も含め、健康増進活動に向けた実践・人材・組織・システムの提言を行う。

3. 研究の方法

(1) 初年度の2013(平成25)年は、既存の文献等の情報を収集するとともに、県保健医療従事者の面接調査をインドネシア研究パートナーと共に実施した。面接調査の内容は、県の保健課題、保健人材の教育システムと課題等を聴取した。

(2) 2年目の2014(平成26)年は、既存情報及び初年度の面接調査から得た情報を整理し、インドネシア研究パートナーと共に分析し、「インドネシア農村部における予防・健康増進転換への地域保健看護強化モデル」試案を作成した。

また、文献検討・面接調査から作成した質問紙を用いて、インドネシア農村部の県の人々の健康行動とその影響要因についての質問紙調査をインドネシア研究パートナーと共に実施した。収集したデータを共分散構造分析を行い、インドネシア農村部の人々の健康行動と個人・社会・環境要因の認識との関連を探索した。結果発表のためのフォーラムを研究フィールドで開催し、インドネシア農村部の県保健局長、地域保健センター長・看護職、保健科学部の大学教員等に研究結果を報告し、地域の健康増進活動に向けた保健プログラム、人材、研究についてディスカッションを行った。



研究パートナーとフォーラムの開催



県保健局長とディスカッション

4. 研究成果

(1) 面接調査参加者：県保健局長、病院長、地域保健センター長、保健科学部の大学教員、小学校長を含む9名の県保健医療関係者である。

質問紙調査参加者：県の高血圧をもつ人々450名である。分析対象は、欠損値の多い3名のデータを除く447名である。

(2) 分析結果：県の保健政策のビジョンとしては、「自立した公平な健康的なコミュニティ」を掲げ、人々が自らの健康を維持できるよう、ヘルスケアと環境の構築を目指していた。県の保健課題としては、残存する母子保健の課題に加え、増加する非感染性疾患やHIV/AIDSが挙げられた。地域保健プログラムとして、母子保健、栄養、治療、疾病コントロール、ヘルス・プロモーション、環境の6つが存在する。看護基礎教育のカリキュラムとしては、この6つのプログラムを実施するために、母性看護学、小児看護学、家族看護学、栄養学、内科・外科看護学、老年看護学、精神看護学、救急看護学、ヘルス・プロモーション、地域看護学等が組み込まれていた。看護基礎教育のカリキュラムの課題としては、①内科・外科看護学は存在するが、成人看護学は存在せず、内科・外科看護学では疾患に焦点が当てられ、成人の健康とそれを支援する看護については明確な記載がない、②地域看護学では、研究フィールドで増加している健康課題（非感染性疾患、HIV/AIDS）へのリスクがある集団への焦点化が少ない、③継続教育の必要があるが、その機会が少ない、④非感染性疾患は増加しているが、それについての調査は少ない、⑤地域看護学での他職種連携教

育の機会が少ないことであった。

インドネシア農村部の県の人々の健康行動とその影響要因について、共分散構造分析の結果、食生活に情報探索行動や環境的バリアが、運動に信仰等が、禁煙には保健医療従事者、保健ボランティアのサポートが関連していた。

(3) 分析結果の統合：面接調査の結果、及び既存情報の分析から、インドネシア農村部における予防・健康増進転換への地域保健看護強化モデル試案（図1）を作成した。

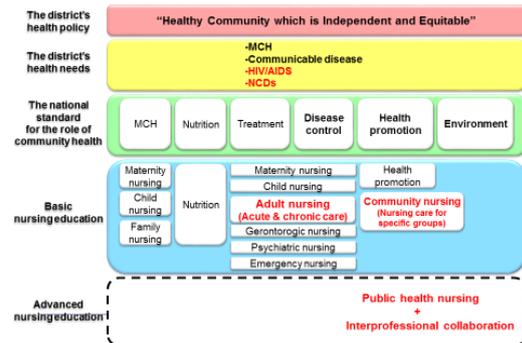


図1. インドネシア農村部における予防・健康増進転換への地域保健看護強化モデル

(4) 考察：インドネシア農村部における疾病予防・健康増進活動を促進するためには、看護基礎・継続教育のカリキュラムへ以下の必要性が示唆された。

①県の保健政策のビジョンである「自立した健康的なコミュニティ」を達成するには、地域において人々が成人期も含めて生涯にわたって予防・健康増進を実践できるよう支援する看護職を育成するために、成人看護学を看護基礎教育のカリキュラムに含める必要がある。

②「公平な健康的なコミュニティ」を達成するには、県の幅広い保健課題のリスクを持つ集団に予防・健康増進を展開できる看護職が必要である。具体的には、増加している非感染性疾患やHIV/AIDSのリスクがある集団への予防・健康増進を推進できる専門的な公衆衛生看護学の看護継続教育が必要である。

③他職種との協働により「自立した公平な健康的なコミュニティ」を達成するために、看護基礎・継続教育において、公衆衛生看護学の専門的な教育のみならず、他職種と協働して地域の

健康課題の解決に取り組める看護職を育成する他職種連携教育が必要である。



保健プログラムでの看護師と保健ボランティアの協働

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 5 件)

- ① Mizutani, M., & Tashiro, J.: Predictors of health behaviors for adults with hypertension worldwide: Research synthesis. Presented at the 18th East Asian Forum on Nursing Scholars, February 2015, Taipei, Taiwan.
- ② Tashiro, J., Maftuhah, Mizutani, M., Yulaikhah, L., Sugiarto, H., & Ogata, A.: Collaborative reformation for strengthening community health nursing in Indonesia - Preliminary analysis of the curriculum. Presented at the 10th Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, July 2014, Coimbra, Portugal.



ポルトガルで開催された WHO-CC 学会での発表

- ③ Mizutani, M., Tashiro, J., & Maftuhah.: Predictors of physical activity of adults in middle-income countries to prevent noncommunicable diseases and to promote health: literature review. Presented at

the 17th East Asian Forum on Nursing Scholars, February 2014, Manila, Philippines.

- ④ Mizutani, M., Maftuhah, & Tashiro J.: Perceived barriers and promoting factors relating to health lifestyle for rural middle-aged Muslim farmer in West Java, Indonesia - A pilot study. Presented at the 4th ASEAN International Conference on Humanized Health Care 2013, December 2013, Yogyakarta, Indonesia.
- ⑤ Mizutani, M., Tashiro J., & Maftuhah.: Health system assessment targeting preventable noncommunicable diseases and health promotion in Indonesia. Presented at the 28th Japan Association for International Health Congress, November 2013, Okinawa, Japan.

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田代 順子 (TASHIRO, Junko)
聖路加国際大学・看護学部・教授
研究者番号: 30134175

(2) 連携研究者

長松 康子 (NAGAMATSU, Yasuko)
聖路加国際大学・看護学部・准教授

研究者番号: 80286707

(3) 研究協力者

MAFTUHAH

Syarif Hidayatullah State Islamic
University Jakarta (国立イスラム大学)・
教員

水谷 真由美 (MIZUTANI, Mayumi)
聖路加国際大学・大学院博士課程・リサーチ
アシスタント

織方 愛 (OGATA, Ai)

聖路加国際大学・大学院博士課程・リサーチ
アシスタント